



首書
汪釋

法苑珠林

繪入

二



光親 梅原使権中納言五位号河内守

也法名西親承人七年於野川被誅

御重 筑重 書之りし如く竹教

ひやんざとがさきさきなりとて
此段物奉行が... 大吏として御重と指入と急ごめ...
先本て好く道と... 先本て寒山頭云持老米始美馬守道古増多
是少幸人... 是少幸人... 是少幸人...

ひらく草を之二

光親 御院の最徳備も作

ひらく草を之二... 御院の最徳備も作...
ひらく草を之二... 御院の最徳備も作...
ひらく草を之二... 御院の最徳備も作...



よなどいひつひて、けいさふのりしてじよて、^{五十四} ぬ珠氏
 してつ、^一 下らなく、^一 じよて、^一 ぬ珠氏
 いひつひていひつひて、^一 ぬ珠氏
^{大和物語} けいさふのりしてじよて、^一 ぬ珠氏
^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏

ききもなつりたり、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 けいさふのりして、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 けいさふのりして、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏

^{五十五}
 家ゆりや、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 まはあつた、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 ろ、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏

みこじく、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 肝、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 ひひ、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏

物と、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 わ、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 ら、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 し、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏
 けいさふのりして、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏、^一 ぬ珠氏

わらわしに一日とて...
ちと大あつたも...
といふてはわ...
事と男ひ...
ふらりも...
か...
真宗院...
い...
も...
こ...
二七日...
と...
く...

ま...
ゆ...
一...
ら...
け...
る...
我...
僧...
法...
官...
能...



おしそか^モ者よそ^{ヨロム}自由ありて大方人よそが^シ入す
 出^{キヤクゼン}行くと食^シ膳^シな^シに^シけ^シけ^シも。人^シの^シお^シよ^シも^シな^シま^シる^シ
 然^シあ^シり^シそ^シく^シぬ^シま^シや^シそ^シい^シり^シ打^シ食^シく^シゆ^シり^シそ^シり^シい^シ
 くら^シけ^シい^シら^シく^シけ^シり^シ。そ^シ非^シけ^シも^シ人^シも^シむ^シく^シ定^シく^シ
 くら^シび^シが^シく^シひ^シう^シこ^シけ^シけ^シなり^シにも
 曉^シも^シ食^シく^シ。ゆ^シり^シそ^シま^シれ^シが^シ魚^シも^シも^シ
 こ^シら^シり^シて^シい^シか^シば^シ入^シす^シわ^シそ^シも^シ人^シの^シい^シら^シく^シい^シは^シ目^シこ
 り^シあ^シく^シい^シく^シ夜^シも^シい^シね^シど^シと^シゆ^シて^シも^シあ^シり^シこ^シか^シど
 ぬ^シ常^シか^シら^シぬ^シい^シは^シも^シい^シら^シく^シい^シは^シゆ^シり^シい^シは^シ徳^シ
 の^シい^シら^シく^シい^シは^シわ^シ 此段徳のむらやしく云肝要毎もは僧行脚ヲ云々非出家務キ世々同
逆徳至は故人モイラス之至ガ人ハ智徳已ト徳ヲ至知眞修ヲ修テ十ニ連
 門^シを^シの^シれ^シ送^シら^シる^シ事^シハ^シら^シく^シい^シら^シく^シい^シは^シ徳^シ
 ぞ^シあ^シり^シこ^シの^シま^シが^シい^シなり^シ。そ^シこ^シら^シく^シい^シは^シを^シゆ^シり^シ

脚食膳主備^シ エテ上七讀
 齊^シ 非時制日午ヲ為法食正時止僧祇
律云午時日影過一髮一瞬即是非時

大正
ゴサン

らび事なり。下はゆりてさかしてことかひ院なり。

禮 和名長音ノ藤同 效ノ器也

皇子御誕生ノ時事ノ平家物語第三卷后
御産時御殿ノ櫛ヲ亂ラ給ハキヨクナリ
ハキヨクナリ

つらさるるの寺村ニ實ヲ御蔵聖教
經典神書ナリ圖書記録何ナモテ御物也
ハキヨクナリ

延政門院いふことなくおりにしりて院まらる人より

ゆいしりてことごとく思ひはつてをま

延政門院 板屋院皇女ノ母大御言ノ御名也
ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

大空の里のりてことかひ院なり。

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

ハキヨクナリ

さて今用ふなり

日本冠始ハ推古帝時聖徳太子十階の冠と制まり又天智天皇の宇三十二階の冠と別し後

今もその冠ハ異なり今その沙冠鳥帽子四十二代天武天皇の御時より始りたり

思し用白飯ころりなり紅梅のちがはぬ一雙とててそのねり

ししてふりてとへり

冠の用白飯子公之大冠冠七代の子孫

一色之も二色之も三色之も何ハ

下毛野武勝宗神天皇の子孫

入彦命之後也日本紀武勝系國可め之

鳥付の松也此高七尺普通の樹なり

はささぐくくしてうすめてはむらひら

きとる付くはくきと説たり人等云物

付括口傳り大臣大徳元服後佐部御用

之産所也根はひの松なり

義氏朝臣説をゆりゆりのり之説と

送るは母なりひの松は母なりとて

何れも付

まいつをわり武勝がり

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

冠の用白飯子公之大冠冠七代の子孫

一色之も二色之も三色之も何ハ

下毛野武勝宗神天皇の子孫

入彦命之後也日本紀武勝系國可め之

鳥付の松也此高七尺普通の樹なり

はささぐくくしてうすめてはむらひら

きとる付くはくきと説たり人等云物

付括口傳り大臣大徳元服後佐部御用

之産所也根はひの松なり

義氏朝臣説をゆりゆりのり之説と

送るは母なりひの松は母なりとて

何れも付

まいつをわり武勝がり

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

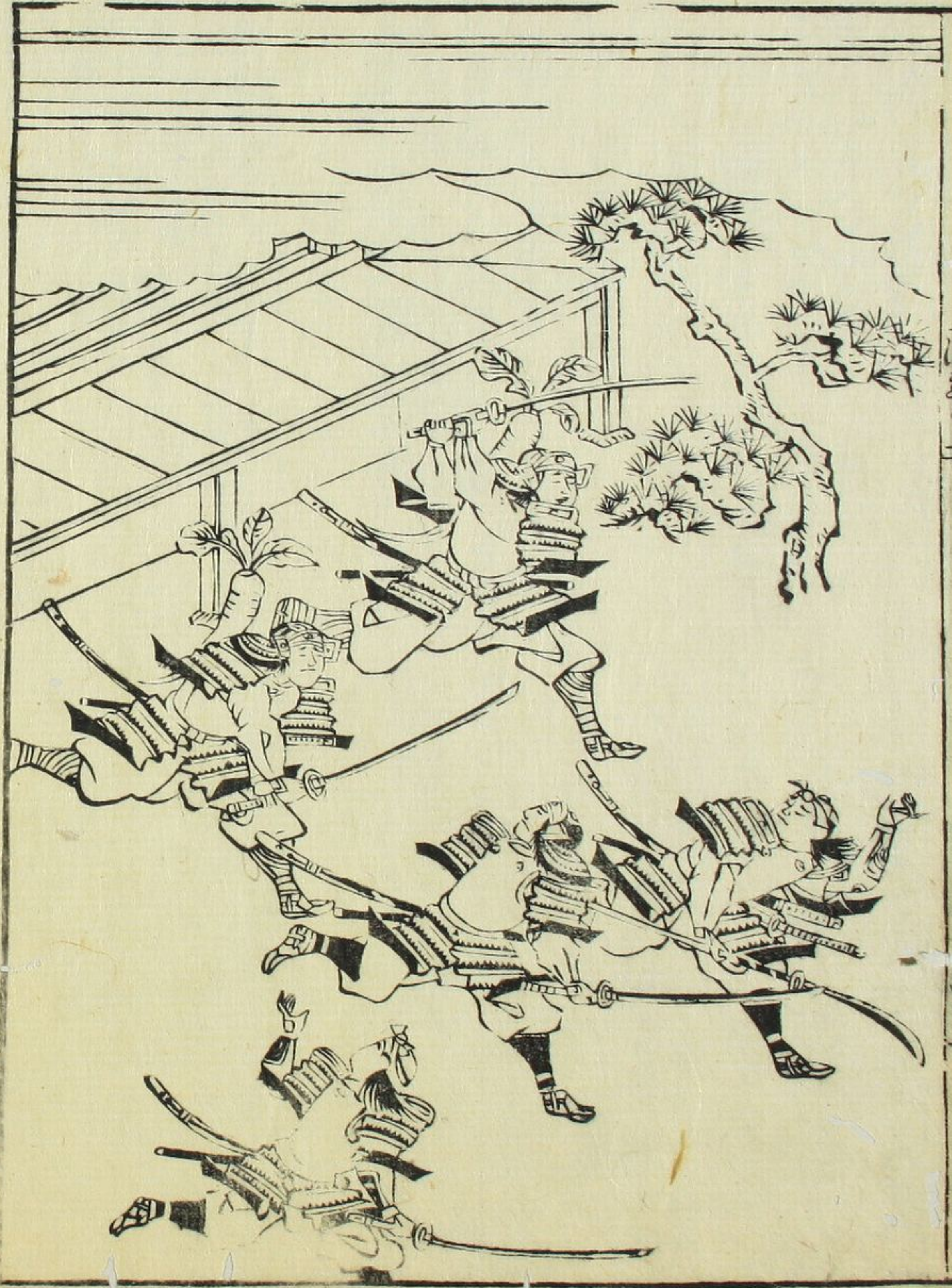
小柄のけりねりねり... 権とつてそとあつたあつた... といふこと... といひたりたつた... といひたりたつた... といひたりたつた...

伊勢物語... 故在五中将... 孫侍從定時... 大納言行成... 或説此兩社... 信一實方... 平城天皇... 孫侍從定時... 大納言行成... 或説此兩社... 信一實方...

加茂の若中... 人の常... 洗も糸... やはと水... 和向月... たりふ人... 加茂の若中... 人の常... 洗も糸... やはと水... 和向月... たりふ人...

今之院... 近傍... 法華經... 作文詩序... 此段近傍... 今之院... 近傍... 法華經... 作文詩序... 此段近傍...

此段近傍... 誠と感... 此段近傍... 誠と感... 此段近傍... 誠と感... 此段近傍... 誠と感... 此段近傍... 誠と感...



三才
 其のひまわりて 襲來に在傳樹種
 輕行 掩其不備日襲、いひまもる
 心もあつとまゝとま

といふ。鼓の心よ昔人いづくも命と行
 といふ。鼓の心よ昔人いづくも命と行
 といふ。鼓の心よ昔人いづくも命と行
 といふ。鼓の心よ昔人いづくも命と行
 といふ。鼓の心よ昔人いづくも命と行
 といふ。鼓の心よ昔人いづくも命と行

くだりぬ或時鼓の心よ人もふら
 かの隙ともしも敵槍をまはりてかゝ
 くだりぬ或時鼓の心よ人もふら

書字の大小法花讀誦の切にりて
 六根淨法花讀誦の切にりて
 六根淨法花讀誦の切にりて
 六根淨法花讀誦の切にりて
 六根淨法花讀誦の切にりて
 六根淨法花讀誦の切にりて

六根淨法花讀誦の切にりて
 六根淨法花讀誦の切にりて
 六根淨法花讀誦の切にりて

こゝろに在りては... 此段前段に... 此段前段に... 此段前段に...

法師の... 法師の... 法師の... 法師の...

世の中... 世の中... 世の中... 世の中...

又... 又... 又... 又...

法師... 法師... 法師... 法師...

法師... 法師... 法師... 法師...

法師... 法師... 法師... 法師...

法師... 法師... 法師... 法師...

法師... 法師... 法師... 法師...

法師... 法師... 法師... 法師...

法師... 法師... 法師... 法師...

リ自... 自... 自... 自...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

又... 又... 又... 又...

年八月、神髮一まり洞院左大臣

安貞雄公後一位左大臣号山科

相国大臣唐名

元龍尤高易乾卦上九元龍有悔

心元龍天上の行極すなり

の行極すてハ必ず悔ふなりトもハ外ハ

一故必ず悔むなりナリ

月満てハを教名三月欽滿則欽

名三月欽滿則欽ノ月ノ

いとよくやくやくナリ中ナ

物さりのてハ范曾公詩云物成則必衰

ハ十五物さりのてハ范曾公詩云物成則必衰

法頭高僧傳茅三梁惠皎所撰法頭傳曰

釋法顯姓冀平陽武陽人三卷經律

論三つをいらぬ人を也

他國コミテ五卷云

優ハ生業和世勝也説也

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと



家一得いまり洞院左大臣後

い事と身ヤシ多してお玉のらいか

くをざりやり元龍ノ悔なりと云

やり事傳る世月らてらと云

物さりのてハ必ず悔むなりト

元龍ノ悔なりと云

るがり此段前段云く優ん事の周り云く也

高僧傳云くカりといふ餘論之の義ハ云く也

法苑珠林九上卷云く

とすては優ん事ノ下云く也

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

融僧都優情らうとらう之を融んといひしりと

凡流優天ノ借

下ノ酒ノまじり

しよぶよとてなり字名よ任ちるとの事よ具足之傍とて

なぬりふよふ道世ノ借とこぞとてなりわらふとて常ノ

しじいかり成付連一馬とけうりしりまぬま

なつやぐりなり口つここのたえん一皮とせよとて

酒と叫されたりしもくよとの

ぬま力ららぬくしひくま

なまこそのとくそせりて

しりた。本橋のほぐやくとて

法師の共士あつてわいこ

ふよけ男ならじしして日言ふもふ中よち中よとて

まりのとていしくをといぶぬまとれづ人も学を力

ぬこ矢くむなりと具足傍よとらてげりし

破く者よぬまゆしてゆいぬいし

わごりてらぬいかに具足傍よ

まいつとれぬとつとて

ふとぬまをさむじりくならまいつとて

かろおあぐがれしやまららまのしきもつと

たこまりりらとよまて

ヤリて血つとて字活人活人の

くしてとつとてわらむら

撫うにひりて小橋施とちか

凡流優天ノ借

馬のよはく

一度一盃とせよとて

酒と叫

なまこ

しりた

法師

ふよけ

まりの

ぬこ

破く

わご

まいつ

ふと

かろ

たこ

くして

撫う

く



小野道風從四位上本頭道風朝臣

村上天皇 康保三年十一月廿七日上意

和漢朗詠集 四條大納言任撰之所也

和漢兩朝詩裁故又云和再漢詩

ナリト云岡白教道公と算ふとこ

時に物事人より作らむと説き

りてふ用む朗詠の讀詠ハ

吟詠と言ふ水いりしりし

らふと付てとて

公任一條院院中康安三年生一乃考三年

入道時六土藏道風死去公任誕生の

此段上原公實ク撰レ飲物
ナリハ心入ニテ筆メナリ
 或者小野道風ハもノ和漢朗詠集ニ
 してハハハとある人信ニ信ニ
 変ふル物と道風人ニ事ニ代ニ也
 その侍人ハハハとせよわりの
 いハハハとせよわりの
 お物ハハハとせよわりの
 一々ハハハとせよわりの
 のあはれ人ハハハとせよわりの
 ころなるものもあはれもの
 のをわらして移レとせよわりの

續東談月令廣義ナド云

此段愚殿一引ての方ハハハと朝之異ハハハ因本
 朝上ニ聖之至愚ハハハ聖賢ハハハ教ニ物ハナレト云

てんかすのわたり物

行阿弥陀佛時宗名三行跡カ行跡

マアリ行ハハ名わすのわ

行阿弥計よみて陀佛の二

行願寺一條草堂寺

号之尺書釋行田身被草服俗跡行願

寺之草堂草丈行願寺南也

くみまて連歌してそ

もたき痛もてわ

てこほくまの頭

んかもなつ

情少御の集の

佛とて連歌

れは是も首

ア人あは心

ゆいなるち

ゆいなるち

ゆいなるち

ゆいなるち

ゆいなるち

ゆいなるち

ゆいなるち

ゆいなるち

まろ僧なり

くまのま

アケるも水

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

此段或人云男色の

て首尾の合ぬ

九上

大酒言法

乃僧官名

アケるも

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

くまのま

赤吉日（九）ん（一）久（二）志（三）やく（四）云（五）日（六）を（七）り
通書大全云赤日忌會客證事買書
又云吉宣争ト多赤日事清明か蓋
蓋アリ其時陰陽を秘ニ世上出カル
故親好偶見ガル九不審也陸陽道職
負令云陸陽以掌天文曆数凡事の色
姜周事ヲ

赤吉日（九）ん（一）久（二）志（三）やく（四）云（五）日（六）を（七）り
通書大全云赤日忌會客證事買書
又云吉宣争ト多赤日事清明か蓋
蓋アリ其時陰陽を秘ニ世上出カル
故親好偶見ガル九不審也陸陽道職
負令云陸陽以掌天文曆数凡事の色
姜周事ヲ

赤吉日といふ事陰陽道（九）の沙汰
なふし也昔の人をさといひ
ひかうふもあひひかくいひつ
おひ日ある事未（三）ことりどい
いひひり一（一）事（二）さり一（三）事（四）さり一（五）事（六）さり一（七）事（八）さり一（九）事（十）さり
いひひり一（一）事（二）さり一（三）事（四）さり一（五）事（六）さり一（七）事（八）さり一（九）事（十）さり
いひひり一（一）事（二）さり一（三）事（四）さり一（五）事（六）さり一（七）事（八）さり一（九）事（十）さり

赤吉日（九）ん（一）久（二）志（三）やく（四）云（五）日（六）を（七）り
通書大全云赤日忌會客證事買書
又云吉宣争ト多赤日事清明か蓋
蓋アリ其時陰陽を秘ニ世上出カル
故親好偶見ガル九不審也陸陽道職
負令云陸陽以掌天文曆数凡事の色
姜周事ヲ

赤吉日といふ事陰陽道（九）の沙汰
なふし也昔の人をさといひ
ひかうふもあひひかくいひつ
おひ日ある事未（三）ことりどい
いひひり一（一）事（二）さり一（三）事（四）さり一（五）事（六）さり一（七）事（八）さり一（九）事（十）さり
いひひり一（一）事（二）さり一（三）事（四）さり一（五）事（六）さり一（七）事（八）さり一（九）事（十）さり



夕六朝米文の書いふ云勿謂今日不系
而有来日勿謂今年不系而有来年
日月逝矣歲不我追嗚呼先足誰
之任リ **利那** 名義集 毘曇語
為一念リ 一念の事と利那とを

子カクとふ人ユエは月ツキわ人ヒトと云ひ
物モノは夕タチわ人ヒトと云ひ
念ネンは修シュ人ヒトと云ひ
利リ那ナ

の一念ニはちのちの一念ニはちのちの一念ニ
此段の事コトはたして人の心ココロのゆるゆるの事コトと云ひ
えとての事コトはたして人の心ココロのゆるゆるの事コトと云ひ

念ネンは修シュ人ヒトと云ひ
利リ那ナ

牛ウシと賣ウ者モノあり買カウ入ニスの目メはつわらひとやりて牛ウシと人ヒトと
長ナガの牛ウシは牛ウシの牛ウシと云ひ

牛ウシと賣ウ者モノあり買カウ入ニスの目メはつわらひとやりて牛ウシと人ヒトと
長ナガの牛ウシは牛ウシの牛ウシと云ひ

牛ウシと賣ウ者モノあり買カウ入ニスの目メはつわらひとやりて牛ウシと人ヒトと
長ナガの牛ウシは牛ウシの牛ウシと云ひ

牛ウシと賣ウ者モノあり買カウ入ニスの目メはつわらひとやりて牛ウシと人ヒトと
長ナガの牛ウシは牛ウシの牛ウシと云ひ

牛ウシと賣ウ者モノあり買カウ入ニスの目メはつわらひとやりて牛ウシと人ヒトと
長ナガの牛ウシは牛ウシの牛ウシと云ひ

牛ウシと賣ウ者モノあり買カウ入ニスの目メはつわらひとやりて牛ウシと人ヒトと
長ナガの牛ウシは牛ウシの牛ウシと云ひ

不計に... 一日の命を

一万余り 大智度論に説く世界空無有

直身命 鴨毛 司馬 迂散社 少卿 書人 固

有一死或重於大山 輕於鴨毛

皆入明 愚人の耳より後より其命誰

も存命すまふ必半の命をわたり

又いづくもよりあるの句

此の命といふまは生をば 生をば

生とをば 生とをば 生とをば

生とをば 生とをば 生とをば

生とをば 生とをば 生とをば

命よりものも... 一日の命を... 命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...

命よりものも... 一日の命を...



馬のよぶくらしをそとへばはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

竹のくらしをたててはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

首職の人よぶくらしをたててはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

くらしのよぶくらしをたててはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

くらしのよぶくらしをたててはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

くらしのよぶくらしをたててはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

くらしのよぶくらしをたててはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

くらしのよぶくらしをたててはくさくさす此段故實と云ふはくらしのよぶくらしの事

二之巻終

井村
卷五
二册